

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市長公室		
	課名	企画政策課		
	係名	企画調整係		
	記入者		電話(内線)	227

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		日本花の会周辺地区整備事業				(3) 事業の 優先度		C					
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体			市								
① 事業の区分		主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質		一般事業費(ソフト事業)					
② 施策コード		21202		(総合計画掲載ページ)		67				ページ		会計区分		一般会計			
基本目標(政策)		2		安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						財源区分		市単独					
基本施策		1		計画的で魅力あるまちづくり(都市計画)						予算科目		款		項		目	
施策				公園・緑地の整備						予算書上の							
施策内容				地域活性化拠点の形成						事業名称		(予算書		ページに掲載)			
(5) 事業期間		開始				年		月から		(8) 事務分類		自治事務					
		終了				年		月まで(		力年)		根拠法令					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）		(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
結城市民 日本花の会結城農場周辺地域		
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）		(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など （※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）
市民による花や木々などの緑化作業の普及・推進		
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応		第3次結城市総合計画に、地域活性化拠点として盛り込まれ、検討がスタートした。
当初の計画浮上時から、経済状況が大幅に変化していること、また、拠点地が民有地ということから、ハード面の整備は行わず、ソフト面を中心とした支援が妥当と思われる。 支援にあたっては、拠点地の関係団体である日本花の会や、結城ロータリークラブの連携とともに、市民参加型の運営組織の構築が必要となる。		

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
事業内容		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費											
	合計											
	財源	国庫支出金 (千円)										
県支出金 (千円)												
地方債 (千円)												
その他特定財源 (千円)												
一般財源 (千円)												
合計 (千円)												
補助・起債制度名												

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	整備検討	目標値	回		1	1	1	1
		実績(見込)値		0	1			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	方針決定	目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	B	どちらとも言えない	市民の余暇活動、あるいは生涯学習活動にあたる内容であり、必要性は市民ニーズによる。				
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	市民団体や公益団体が実施することも考えられる。				
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	課題の抽出およびニーズの把握にあたっては、関係課と連携し協議会の設立なども視野に入れる必要がある。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	当事業は具体的活動まで至っておらず、当該項目の評価に適さない。				
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	最終受益者は市民を対象としており、偏りは少ないが、計画地は民有地である。				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	事業実施の必要性について、検討中の段階であり、当該項目の評価に適さない。				
進捗度	事業の進捗	C	遅れている	当事業は停滞しており、必要性の判断が求められている。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
当初の計画浮上時から社会情勢が大幅に変化しているため、現在の状況下での必要性の有無について、判断材料を精査し、結論付ける必要がある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
拠点地に関係する日本花の会や結城ロータリークラブの今後の活動方針を把握するとともに、市民ニーズについても当事業の必要性の判断材料として調査を行う。 現段階では計画的で魅力あるまちづくりという視点から事業を実施しているが、将来的には協働のまちづくりに主眼をおき、市民活動の普及・促進としての施策展開が望まれる。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		27年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		統合・新事業への展開		注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		統合・新事業への展開		市民活動の活性化の観点から、現在行っている市民活動支援センターへの補助金による支援や、生涯学習の拠点としての活用を進めることを検討する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				